

## 健康寿命延ばし、暮らしと財政の活力アップ

国分寺政策市民フォーラム 星 いつろう



## ☆65歳になったらパンフレットの配布を

星)「高齢者自立支援住宅改修」を活用して、自宅の階段に手すりを取り付けた方にお話を伺った。「階段から落ちて寝たきりにでもなったら大変」とのアドバイスを受けての対応。「事故防止に有効」と喜んでいらっしゃる。同時に「対象年齢になっていただお経つが、制度を知らなかった。65歳になった人には、こうした制度を紹介するパンフレットを配布してほしい」との要望をお伺いした。

市) PRは重要。費用対効果を含めて研究したい。

星) 財政を気にかけていらっしゃる高齢者の方々は少なくない。「私が健康であり続ければ、

市の医療や介護費を節約できるでしょ」とおっしゃる。制度の周知と有効活用により健康寿命を延ばし、重度化を防ぐ。こうした費用対効果の観点から検討をお願いしたい。

## ☆学童保育所4年生以降の受け入れを

星) 働く保護者のみなさんからご要望をいただいている。まずは、三季休業中だけでも学校の教室を使って4年生以降の受け入れを行っていただきたい。

市) 備品の設置など基準があり、なおかつ、学校に空き教室がない。現状では難しい。

星) 保護者へのニーズ調査を実施し、「すぐに行うこと、やるべきこと」「長期的課題とな

ること」を市として精査していただきたい。

市) 調査を今年度行っていく。

## ☆保育所職員「処遇改善対策」の効果検証を

星) 市が行っている保育所の職員に対する処遇改善策の効果はどのように表れているのか。年収や定着率の変化など、市が把握している具体的事例で説明をお願いしたい。

市) 実際にどのように賃金として改善されたのかの把握が困難で、数字で示すことは難しい。

星) その答弁では不十分と考える。保育施策には多額の税金を使っている。待機児童対策の拡充を求める立場だからこそ、税金を投入した効果の検証を今後も求めていく。

## 子どもの人権をまもる 救済のしくみづくりを

国分寺・生活者ネットワーク 岩永 康代



## ■多様なニーズに対応できる保育施策の拡充

岩永) 国でも雇用関係に頼らない働き方をすすめていることから、多様化する働き方に合わせて保育施策の拡充が必須。自営業者やフリーランスは産休・育休制度が無い中で、子育てと仕事の両立が難しい現状があるため、入所基準を見直す必要がある。答) 検討委員会でも検討中。岩永) 一時保育の質の確保に不可欠な専任保育士配置の費用助成等、補助規則の見直しと計画的な拡充を。利用者に分かりやすい情報提供を。答) アンケート調査でもニーズ量を把握し、事業計画に位置付けをすすめる。情報提供のあり方も検討する。

## ■子どもの救済のしくみ 岩永) 子どもを取り巻

く問題が複雑化、深刻化している。国立市の「子どもの人権オンブズマン」や、世田谷区の子どもの人権擁護機関「せたホッと」のように、子どもに寄り添い、子どものエンパワメントを支援する、子どもの救済のための公的第三者機関の設置を。答) 情報収集していきたい。

■障がい児福祉の所管 岩永) 障がいのある子どもや発達支援・医療的ケアの必要な子ども、みんな同じ地域の子どもととらえ、全ての子どもが共に成長できるよう、地域社会への参加や包容(インクルージョン)を推進することが重要。障害児福祉計画を子どもの総合計画の下に位置付ける町田市取り組みを参考に、障がい

児福祉に関する事業を子ども施策としてとらえ、子ども家庭部で所管する検討を。答) 研究する。

## ■減農薬の取り組みと有機農業の推進 岩永

減農薬や有機農業を応援する具体的な取り組みは? 答) 東京都エコ農産物認証制度の周知など。岩永) 農薬や除草剤について、市民への啓発も重要。野生のミツバチの大量死などが報道されているネオニコチノイド系農薬について、2018年4月にEU常任委員会で屋外の作物への使用を全面禁止する規制案が承認され、年内にもEU全加盟国で施行される予定である。市でも農薬や除草剤の使用状況に関する実態把握や情報提供を。答) 関係各部とも連携して研究してみたい。

## 気候変動、プラごみ問題は足元から対策を!

国分寺・生活者ネットワーク 高瀬 かおる



◆ごみ問題について◆ (問) ペットボトルの収集体制の見直しは、拡大生産者責任の観点から販売店への店頭回収を基本に、現在の直営での拠点収集は中止し、4週に1回の戸別収集を導入してはどうか (答) 収集量が年々増加。総合的に判断する (問) 減量や分別には、市民や事業者の協力が不可欠。議論の場の設定を (答) 廃棄物の減量及び再利用推進審議会と連携する。◆緑の創出について◆ (問) (仮)公園・緑地整備計画の策定には、土地の確保の見通しが重要。生産緑地の2022年問題が迫っている。関係者への十分な意向調査を行い、現実味のある計画策定を! (答) 買い取り申し出がでる可能性

は否定できない。財政面の問題もある。関係部署と協議、検討する (問) 農地を農地として残すことは大前提。農業公園的な整備も検討を! (問) 生け垣助成の拡充に合わせて、樹木の管理が必要。剪定に必要な道具の使い方や枝の切り方など、実践で教えるしくみや相談体制を、市民農業大学等と連携して整備してはどうか? (答) JAや植木組合等への相談を視野に方法を探る。関係部署との連携を図り取り組んでいく。

◆自然エネルギーについて◆ (問) 長野県飯山市など友好関係にある都市と、自然エネルギー導入の可能性について協議してはどうか。東京都環境公社も地域間連携の技術支援を行っ

ている (答) 情報が少ないので調べてみたい。

## ◆家族介護者(ケアラー)支援について◆

(問) ヤングケアラーも含めた家族介護者本人を支えるために、必要な施策を検討する協議の場が必要だ (答) 新たに「相談支援総合調整会議」を設置し、健康部、福祉部、子ども家庭部が一体となって、総合的な相談支援業務を実施する。ヤングケアラー等についても対応を考える (問) 教育関係からの参加も必要だ (答) 子どもがいる世帯は、学校との連携は重要。適切に連携する (問) 地域では多様な見守り活動が行われている。横の連携を図り、家族介護者も支援する取り組みを求める (答) そうしたい。

## 魅力ある学校づくり、性の多様性、こくベジ

無会派(ここに幸あれ) 幸野 おさむ



幸野) ◆第四小学校の増築棟について◆対応が遅れビオトープを廃止する計画だが、最大の問題は、子ども達や保護者の声を聞かずに進めている事だ。当事者で学校の課題解決を考える教材になる。魅力ある学校づくりが必要だ。

部長) 魅力ある学校づくりは学校だけでできるものではない。ただ今回の件は、限られた条件と財源の中でやらざるを得ない×

幸野) ◆学童保育所も増設すべき◆ビオトープに建てるとしても、最低でも2階建てにすべき

部長) 学童保育所の設置は難しい。ただ児童数増加を考えた時に、早急な対応も必要と思う△

幸野) ◆不登校問題への対応について◆学校が

義務教育の施設として、映画「みんなの学校」のように全ての子ども達を受けとめるべき。

教育長) 大きな課題だが、全教職員は子ども達の為に全力を尽くしている。どこが足りないか、何ができるか、日々考え、実践していく△

幸野) 学校以外の受け皿として、フリースクールの誘致や特例校の設置等、真剣に議論すべき

教育長) 他市の動向も踏まえて、探っていく△

幸野) ◆性の多様性を保障する条例を◆国立駅前連携施設「くにたち男女平等参画ステーション」を視察。国立市は条例を制定して、事業展開しており、連携した取り組み・条例制定を

幸野) ◆障害者差別解消条例の制定を◆「生産性の有無」で差別される社会にすべきではない

部長) 条例の必要性について研究していく△

幸野) ◆こくベジの積極的な展開を◆こくベジの市内ネットワークを構築した。保育園や学校給食での積極的活用や、障がい者団体の喫茶店・パン製造、お菓子作り等の連携も展開しては

部長) 今後、様々な人々や企業、団体と連携し、庁内連携も密にしながら、一層広めていく○

幸野) ◆踏切を横断する動線の確保を◆本多3丁目～西武多摩湖線の横断、国分寺駅～西国分寺駅間の横断の確保について、提起しました。○=前向き、△=含み答弁、×=冷たい答弁